なぜ英語が話せないの？

〈69〉

会話上達法第三部

基本動詞をマスター

簡単な表現で力は上昇

「英会話を習うなら外人から――と盲信している人がいる。だが、日本人の英語力の弱点を熟知して教える外国人は少なく、むしろ質の高い日本人の会話教師から習った方が実力がつく」

最近、英会話を勉強する学生やOL、サラリーマンの間で、こんな話をよく耳にする。外国人と対等に話が出来、単なる“英語屋”に陥らず、国際的な広い視野をも兼ね備えた英会話の先生は、そうザラにはいないが、皆無というわけでも無論ない。

久留米市東町で「実践英語セミナー」を開く戸田昭　よ」。

二学院長(五三)は、かつて貿易会社に籍を置いたこともあって、国際政治、経済の動きに敏感。教材にも米誌「タイム」を採用するなど、時事問題の学習なども盛り込みながら、効果ある英語指導を展開している。

戸田学院長の英会話についての持論は「基本動詞の用法を徹底的にマスターせ

英会話学習法の一つに、単語はわずか八百五十語を覚えればOKというベーシック・イングリッシュがある。戸田学院長によると、この中に出てくる動詞の数は、たったの十八語。この中からmayとwillを除くと十六語になる。「つまり、getやgive,takeなど基本十六動詞を、結合前置詞を含めて暗記すれば、会話力は飛躍的に向上。結局、この基本動詞を、どう使いこなすかが会話力の勝負になるんです」と強調する。

例えば、最も簡単なbe動詞。「お父さん、いらっしゃいますか。いえ、外出しています。一時間もすれば戻ってきます」なら「Is your father in? No, he's out. He should be back in an hour」。さらにしばらくして「お父さん帰られました？」「いや、まだ出たままです」は「Is your father back?」「No, he is still out.」となる。

be動詞は大変、便利で「ガスはついてる」「いや、消えています」「ラジオのスイッチは切っています か」「いや、スイッチが入っています」など応用範囲は極めて広い。この場合なら「Is the gas on?」「No, it's off」「Is the radio off?」「No, it's off.」となる。

「来週、東京へ行きます」の行くもgoを使わなくても「I'll be in Tokyo next week.」でOK。同様に「すぐ、そちらへ行きます」「十分後にそこへ行きます」も「I'll be there right away.」「I'll be there in ten minutes.」でよい。次回は、戸田先生の基本動詞の使い方を詳しく紹介する。

基本動詞さえマスターすれば鬼に金棒…と戸田先生